

【2】杉並区立西宮中学校 令和4年度 自己評価・学校関係者評価について

教育調査の結果に基づく自己評価と学校関係者評価委員会で出た各委員からの意見・感想及び質問等について、学校側的回答とともに「学校関係者評価の結果」としてまとめました。

1 自己評価（教育調査の分析）

（1）生徒対象 杉並区共通質問

- 共通質問 1 4 項目のうち、6 項目で昨年の肯定率を上回った。
- 昨年度に比べ肯定率が下がった項目は 7 項目である。そのうち、3 項目において肯定率が 50%を下回った。
- ・【質問 3】「授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。」の肯定率は 43.0%であった。また、【質問 4】「授業では自分の興味に基づいて問い合わせや課題を立てて学んでいる。」の肯定率は 49.8%であった。校内において I C T 機器が配備され、個に応じた学びの環境が整いつつある中で、今後ますます I C T 機器の活用による個別最適な学びができるよう、指導方法の工夫・改善を図る必要がある。また、教材研究をさらに深めることで生徒の問い合わせを引き出し、生徒が主体的に学習する課題解決的な授業を展開する必要がある。
- ・【質問 1 3】「地域の行事に参加している。」の肯定率は 23.9%であった。少しずつ地域行事が再開しているとはいえ、まだまだ生徒の参加には制約もあるため肯定率は低迷している。
- ・【質問 1 4】「先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。」の肯定率は昨年度より 1.5 ポイント上昇したが、50%を下回った。本校の共育支援本部が定期考査前に自習教室「アフタースクールスタディ」や英語検定試験及び漢字検定試験の運営、土曜授業での外部講師の招聘、植栽等の環境整備や校内掲示等で多大な協力をいただいている。また、震災救援所連絡会には防災教育講演会や第 3 学年対象の震災救援所訓練、中学生レスキュー隊との合同訓練等、防災教育にも積極的に関わっていただいた。来年度も地域との協働によって、授業や学校行事の一層の充実を図るとともに、まだこうしたことなどが知られていない面もあるため、生徒及び保護者への周知にも努める。

（2）生徒対象 独自質問

- 独自質問 1 4 項目のうち、1 2 項目で昨年の肯定率を上回った。
- 肯定率 50%を下回った項目はなかった。なお、肯定率 60%に達していない項目は 1 つのみであった。
- ・【質問 1 5】「先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしています。」の肯定率は 58.4%であった。本校では毎日の清掃活動はもとより、毎学期末に実施する大掃除をはじめ環境委員会が主催する美化コンクール等を通して、校内美化についての意識の向上を図っている。また、生徒会主催の落ち葉掃きプロジェクトでは多くの生徒によるボランティアが敷地内の落ち葉清掃に取り組んだ。肯定率が 60%を下回っている結果から、すべての生徒にとって美化コンクールや落ち葉掃きプロジェクト等の取組がその場限りの取

組として捉えてしまっていたり、生徒自らが主体的に考え話し合う機会が少ないと感じていたりする可能性が考えられる。これらの取組は継続して実施することに意味がある。生徒にとって整理・整頓及び清掃活動がなぜ大切なかについて教員が絶えず伝えることはもちろんだが、生徒自身にも考えさせる機会を増やす必要がある。

(3) 保護者対象 杉並区共通質問

- 共通質問 1 3項目のうち、昨年度の肯定率を上回った項目は 5 項目である。
- 昨年度に比べて肯定率が下がった項目は 8 項目である。また、肯定率 50%を下回った項目は 4 項目である。
- ・【質問 2】「連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。」の肯定率は 45.7%で 50%を下回ったが、昨年度に比べて 14.2 ポイント上昇した。小中一貫教育については、連携する小学校との合同研修会を 5 回実施した。小学生の中学校体験については、今年度は小学 6 年生による中学校授業体験と部活動体験を行った。コロナ禍により中止が続いた西宮アドベンチャーも 3 年ぶりに開催できた。内容については新型コロナウイルス感染症を考慮し、例年とは異なり地域の小学校 4 校の 5・6 年生を対象にした部活動体験を実施した。
- ・【質問 1 1】「学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。」の肯定率は 31.8%であった。特別支援教育については、巡回の特別支援教室教員や済美教育センター及び特別支援教育課等を始めとする関係諸機関と連携し、特別な支援が必要な生徒及び保護者には様々な情報を伝えているが、一般の生徒及び保護者にとっては情報に触れる機会が少ないと感じられたかもしれない。今後は情報提供の方法をさらに工夫する必要がある。
- ・【質問 1 2】「子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。」の肯定率は 10.6%であった。この質問の回答不能率は 29.8%であり、「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 66.9%であった。昨年度は新型コロナウイルス感染症を予防するために特別支援学校の副籍生徒との直接交流等が中止となったが、今年度は昨年度に引き続き、野球部やバレーボール部等において交流試合を実施した。来年度はこのような取組を広く保護者や地域の方々に知っていただくことが課題であると考える。

(4) 保護者対象 独自質問

- 独自質問 1 5項目のうち、昨年度の肯定率を上回った項目は 7 項目である。
- 肯定率 50%を下回った項目は 5 項目である。
- ・【質問 1 4】「学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えてくれていると感じている。」の肯定率は 44.1%であった。この質問に対する「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 44.5%であった。本校の特色ある教育活動として、共育支援本部の協力をいただき外部人材を招聘した授業を積極的に推進しているが、その内容が十分保護者には伝わり切っていないため、今後は学校だよりや保護者会等を通して情報をより積極的に保護者や地域に発信していきたい。

- ・【質問 15】「学校は、障害など、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。」の肯定率は 22.4%であった。この質問に対する回答不能率は 26.1%で、「どちらともいえない」と回答不能を合わせた割合は 62.4%であった。これまで学校は、教室に入ることが困難な生徒や集団活動が苦手な生徒等に対して、それぞれ個に応じた対応の一環として別室登校できる教室の確保やそこで行う課題を提示したり、合計 5 名の学生センターを活用した学習支援や見守り活動等のきめ細やかな支援を実施してきた。これからもそのような生徒に対して支援を継続するとともに、特別支援教室に通室していないが、支援の必要な生徒への適切な配慮や支援を充実させていく。
- ・【質問 16】「義務教育 9 年間を通した一貫性のある教育（小中一貫教育）は、子どもたちの成長や発達によい効果をもたらしている。」の肯定率は 36.7%であった。小中学校教員の多くは、指導方法の連続性や教育内容の系統性を担保する上で、小中一貫教育は意義があると認識している。一方で、保護者にはその意義が十分に伝わっていないものと推察される。
- ・【質問 17】「いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて教員が協力して取り組み、生徒たちは、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作られている。」の肯定率は 50%を下回ったが、昨年度と比較すると 2.5 ポイント上昇した。生活指導部における「いじめ不登校校内委員会」や「特別支援校内委員会」等において、いじめや不登校への組織的な対応は強化している。また、昼休みや休み時間を中心に教員が教室や廊下などで生徒たちを見守る活動を通して対話を深めている。教員によるこれらの取組を通して、いじめや不登校につながる小さな芽を発見し、諸問題に対して組織的に対応している。今後はこれらの活動を一層強化することで、保護者にとってさらに安心できる学校にしていく必要がある。

（5）学校運営協議会委員対象 共通質問

○ほとんどの共通質問で肯定率が 80%を大きく上回り、高い評価をいただいた。

○肯定率 80%を下回った項目は 1 つであった。

- ・【質問 6】「学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。」の肯定率は 77.8%であった。生徒が学習する上で環境を整えることは重要であり、その学習にふさわしい場を設定したり雰囲気を作ることはとても意味があることである。小学校とは異なり、中学校という資源が限られた状況の中で、最大限の工夫と努力を重ねることが重要であると考える。

（6）教員対象 杉並区共通質問

○共通質問 14 項目のうち、10 項目において昨年度の肯定率を上回った。

○肯定率が 80%未満の項目は次の 1 項目である。

- ・【質問 11】「連携する小・中学校の教員が協力し合って各教科等の学習指導に取り組んでいる。」の肯定率は 68.2%であった。年間 5 回の小中一貫教育研修会において、小・中学校の教員が研修を通して互いに学

び合う機会があったが、協働して指導を行うまでには至っていない。今後は、小中一貫教育研修会で得た成果を生かして、例えば小・中学校の教員がお互いに教科指導における専門的なアドバイスを行うなどの取組も模索していきたい。

(7) 教員対象 独自質問

- 独自項目 21 項目のうち、肯定率が 80% を上回る項目は 20 項目であった。
- 肯定率が 80% を下回る項目は次の 1 項目であった。
・【質問 16】「学校や地域の実情に合わせた小中一貫教育を進めている。」の肯定率は 77.3% で、昨年度の肯定率を 13.7 ポイント上回った。一昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、小中一貫教育研修会が全く実施できなかったが、昨年度は制約がある中、リモート等により研修会を実施することができた。さらに今年度は対面で小・中それぞれの教員による授業参観も 3 年振りに実施することができた。これらの活動等により、肯定率は年々上昇している。中学校の教員が連携する小学校を訪問し、そこで学ぶ児童の姿や様子を観察することを通して、児童・生徒にとってどのような学びや支援が必要で、そのための最善の方策は何なのかについて考えることは大変意味のあることである。そのためにも、小・中学校の教員による協働も一層推進していく必要がある。

2 学校関係者評価

日 時：令和5年2月24日（金）15：00～17：00

会 場：杉並区立西宮中学校多目的室

【学校関係者評価の結果】委員からの意見及び質問等

＜記号の説明＞ ○：委員からの意見・質問 →：学校からの回答 ●：出席者からの意見・感想等

- 生徒の清掃活動について、先生方は生徒をどのように指導していくのか。（質問項目：生徒対象独自質問 15）
 - 清掃活動については、自分たちの環境整美にどう取り組むのかについて、子どもたちに考えさせることも 1 つのやり方だろう。
 - 掃除は、昔は家で親が子どもに厳しく教えたものだ。学校だけで清掃指導を行うのは、今は難しいのではないか。各家庭に協力してもらう必要がある。

- 小学校での掃除は縦割りで、児童は担当の場所を一生懸命掃除している。中学生になると当番制になり、責任をもってやる生徒とそうではない生徒が出てくる。環境委員会による美化コンクールは一生懸命に取り組んでいるが、生徒主体なので取り組み方に幅がある。学期末のワックスがけも委員会で行うので、自分には関係ないという考えをもつ生徒が出てきてしまうのではないか。
- 主体的に清掃活動に取り組んでいる生徒もいるが、責任をもたず清掃をさぼって帰ってしまう生徒に対して、先生方は指導する必要があると思う。

→ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、清掃活動を始めとして様々な活動が緩くなったりすることは事実である。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたので、今後はどうしていくべきかについて検討していく必要がある。

また、本校は自主・自律を掲げて生徒は学校生活を送っているが、教員がそれに慣れてしまっている面もある。自主・自律という言葉に任せて、生徒を指導することをためらわないよう教員には伝えている。

教員の人数についても課題がある。各クラスは担任が清掃監督を務めるので、ほとんどの生徒は一生懸命に掃除をする。しかし、それ以外の場所（特別教室等）については監督教員の数が足りず、全ての清掃箇所を監督できないこともある。

- 学校運営協議会を対象とした質問について、肯定率が8割を大きく上回り、高い評価になった。

→ 学校運営協議会の委員の皆様は、本校の様子を詳しくご存じのため高評価をいただいている。一方で、保護者は学校だよりや学年だよりなどで学校の様子を知ることはできるが、直接学校を訪れるのは保護者会や土曜授業での学校公開等しかないので、学校の様子をより知っていただくためにはどうしたらよいかを工夫していく必要がある。